

「お仕事を疲れさま」
東京都板橋区の熊野薫さん(39)は夕飯の食卓につき、夫(44)に話しかけた。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

家族だんらの風景。ただし、夫はパソコン画面の中だ。缶ビールを手に笑顔の夫はタイに単身赴任している。家族をつなぐのは無料のネットサービス。ITの進歩で離れた家族がテーブルを囲める。「すぐそこに夫がいるみたい。一緒に暮らしていた時よりも会話が增えたかな」

「お仕事を疲れさま」
東京都板橋区の熊野薫さん(39)は夕飯の食卓につき、夫(44)に話しかけた。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「お仕事を疲れさま」
東京都板橋区の熊野薫さん(39)は夕飯の食卓につき、夫(44)に話しかけた。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「お仕事を疲れさま」
東京都板橋区の熊野薫さん(39)は夕飯の食卓につき、夫(44)に話しかけた。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

「ばんかい(乾杯)しようよパノ」と、うれしそうにコップを掲げる。

暮

らし新景

日本 ● 2020

乾杯は「ネット食卓」で



①タイに単身赴任の夫とパソコンを通じて食卓を囲み「乾杯」する熊野さん親子(東京都板橋区) ②1974年に開業したセブンイレブン1号店(セブンイレブン・ジャパン提供)

つづ進化するコンビニは、時代の暮らしを映す(高木裕之・野村総合研究所グループマネジャー)

異なる家族が食卓でつながろうという試みがある。コモンミール(共同の食事)と呼ばれる。11世帯24人が暮らす「スガモフラット」(東京都豊島区)は、各世帯の住戸とは別に約30畳の共有ダイニングキッチンを用意する。入居する20〜50代の大人が交代で月1回、食事を当番を務め、食堂で他の家族と共に夕食をとることが出来る。昨年12月下旬の休日の

夜。10人ほど座れる大テーブルの周りに入居者が三々五々集まってきた。この日の食事当番は、子ども2人がいる会社員の男性(48)。「ニラシューマイを1000個も包んじゃった」と笑顔で皆に報告すると、すかさず別の家の小学1年の女兒が「ワタシも手伝ったんだよ」とうれしそうに声を上げた。並んで食べる仲良し小学生3人組の隣には、赤ちゃんのいる若い夫婦。家族が入り交じって食卓に着く。席が空くと別の入居者が座り、また新しいおしゃべりの輪が広がる。「大きな家族のようです。一人で食べることはありません」。入居者の一人はそう話す。

緩やかなつながりが生む和やかな食事。新しい食卓の姿に、失われたちやぶ台の風景が重なって見える。



家族と食 流行語で追う